

## 京都の世界遺産

嵯峨乃やのかわら版では、世界遺産である京都をご紹介します。

### 京都の文化世界遺産シリーズ その10



### 西芳寺 (さいほうじ)

「西芳寺」が正式の名称ですが、一般には「苔寺」といわれています。約120種の苔が境内を覆い、緑のじゅうたんを敷きつめたような美しさから苔寺とも呼ばれるようになりました。

臨済宗の寺院。山号を洪隠山と称し、本尊は阿弥陀如来、開山は行基、中興開山は夢窓疎石です。

西芳寺は応仁の乱で殆んど全ての建物は焼失。江戸時代には2度にわたって洪水にも見舞われて荒廃しました。枯山水であった庭園が荒れ果ててしまい、今日のように苔でおおわれるのは江戸時代末期に入ってからのようす。すぐそばに川が流れる谷間、という地理的要因が大きいとされています。

西芳寺は、かつて誰でも参観できる観光寺院でしたが、今現在は一般の拝観を中止し、往復はかきによる事前申し込み制が必要となっています。拝観時は、写経などの宗教行事に参加することが条件となっています。

境内東側は黄金池を中心とした苔の庭園であり、東側には本堂（西来堂）、書院、三重納経塔などがあります。庭園内には湘南亭、少庵堂、潭北亭（たんほくてい）の3つの茶室があります。境内北側には枯山水の石組みがあり、開山堂である指東庵が建っています。

本堂には、堂本印象の筆による襖絵があり、本尊阿弥陀如来が安置されています。

湘南亭（重要文化財）は、夢窓疎石の時代に建てられ、その後荒廃していましたが、千利休の次男・千少庵によって再興されたと伝えられる茶室です。



足を五本指に開放することで、得られる健康は、外反母趾の矯正、姿勢の矯正、冷え性緩和など、計り知れないものがあります。足の指を五本指に開放する「木曾ねずこ製」の下駄を開発しました。このGETALS（ゲタル）は、商標登録の出願をしています。

